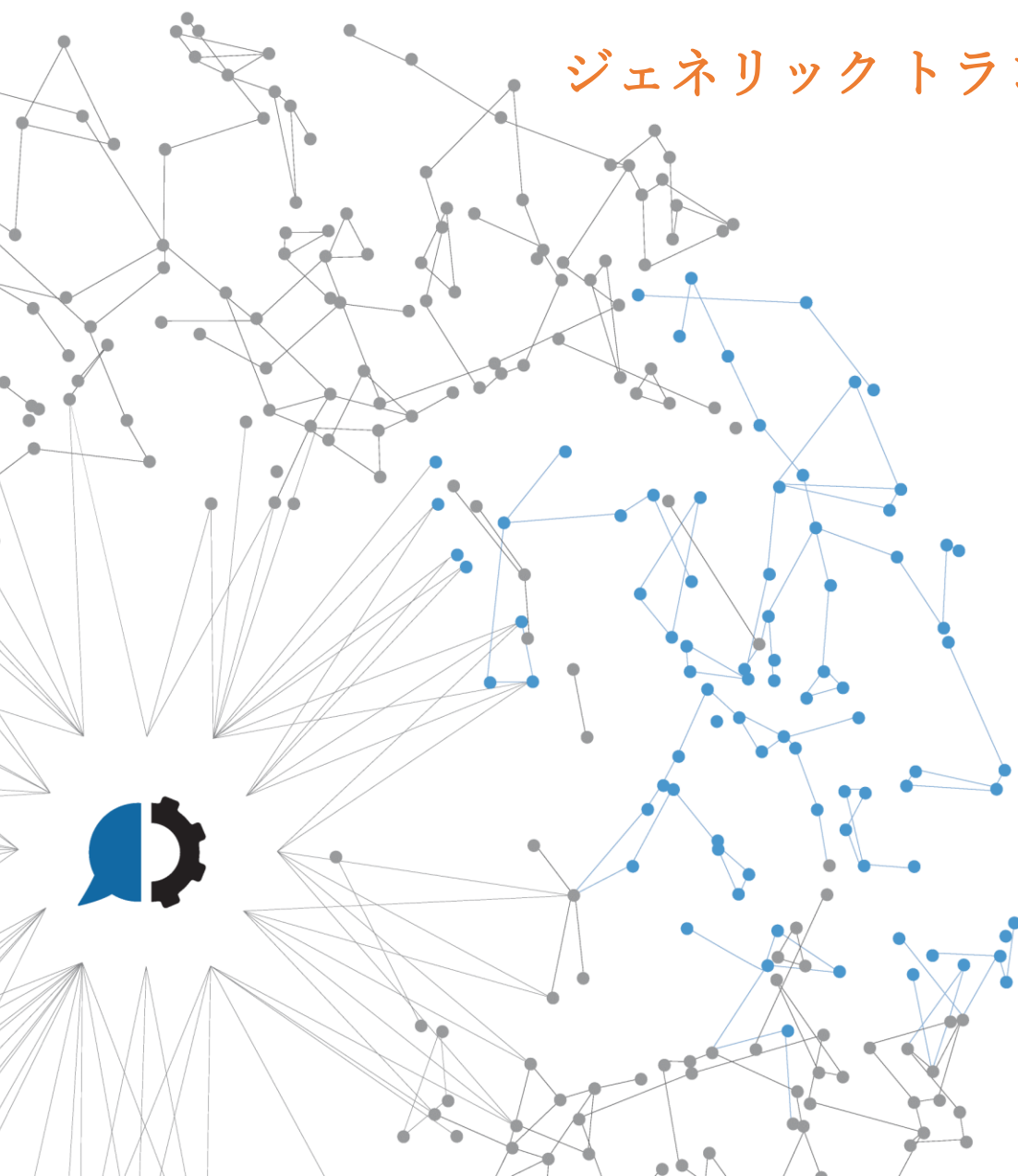




# SAP BOT

## ジェネリック トランザクション





## 目次

概要 .....	3
必要要件 .....	4
AUTOMATE タスクのインポート方法 .....	7
SAP GUI スクリプトの作成方法 .....	8
「SAP BOT - ジェネリック トランザクション」の実行方法 .....	11
付録 A - トラブルシューティング .....	13



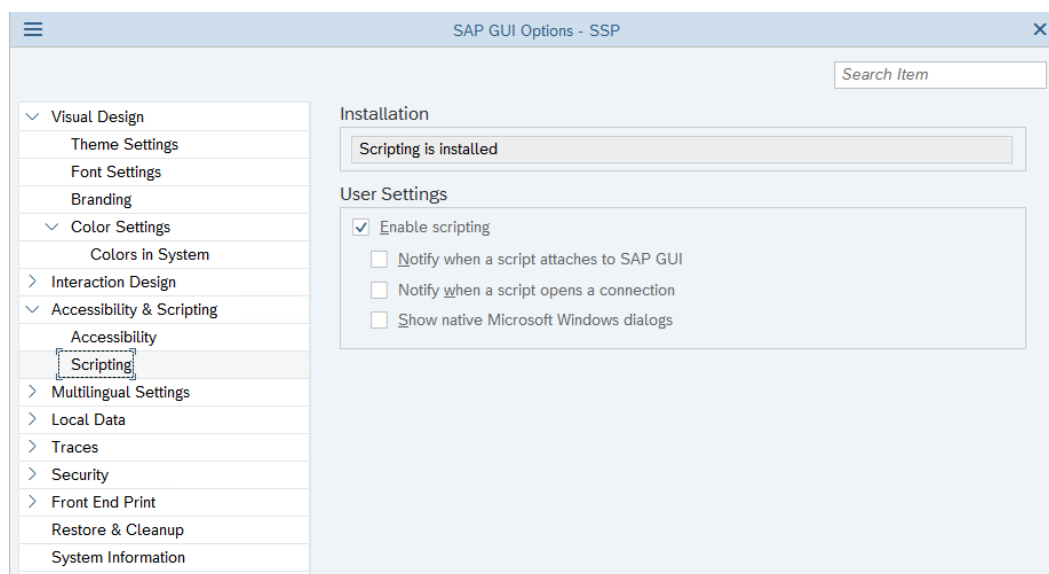
## 概要

この How to ガイドでは、「SAP BOT - ジェネリック トランザクション」をご紹介します。繰り返しの多い手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに **AutoMate** に任せて、RPA による自動化で IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。**AutoMate** の支援により、ボットが手作業を代行することで反復作業を大幅に減らし、作業の品質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。



## 必要要件

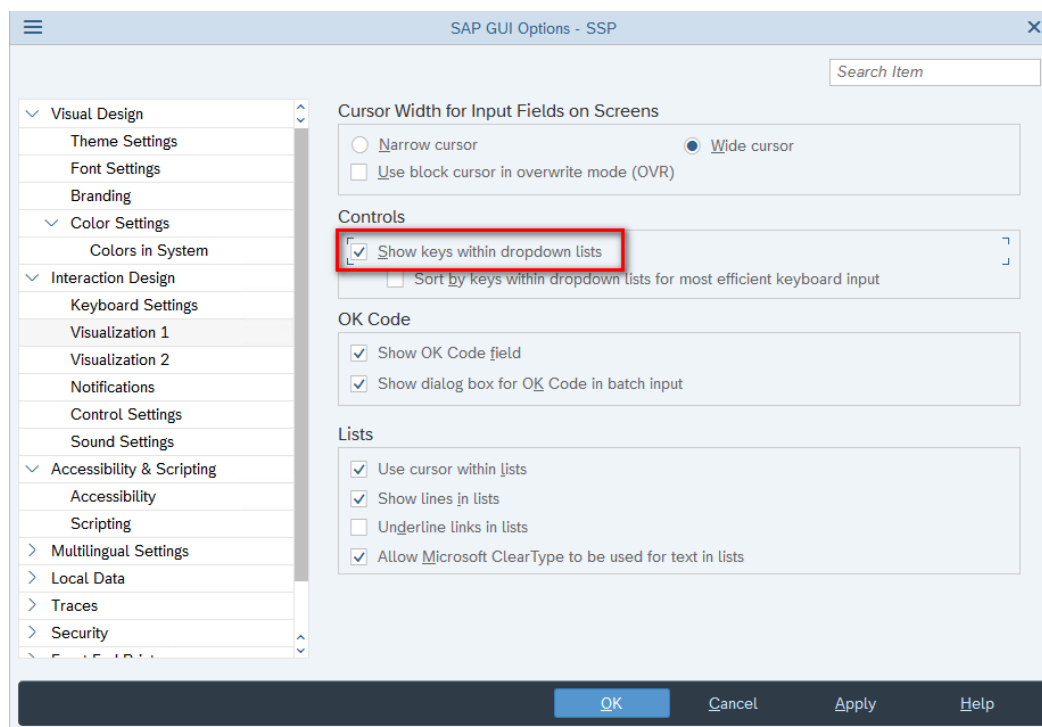
- **AutoMate:** SAP BOT ボットは動作に AutoMate を必要とします。最低限サポートされているバージョンが以下の通りです:
  - [AutoMate Ultimate 11.2](#)
  - [AutoMate Plus 11.2](#)
  - [AutoMate Desktop 11.2](#)
- **SAP クライアント:** 最低限必要なものは
  - [SAP Logon 760](#)
  - SAP GUI スクリプトが有効



- 記録されたタスクを実行するのに十分な権限を持つユーザー



- ドロップダウンリストにキーを表示する機能を追加



- **AutoMate Markup Language file (.AML):** SAP BOT ボットタスクのステップを含む AutoMate で使用される主要なファイル形式
- 接続と SAP ログインのための定数を自動化:
  - **const\_SAPClientNumber:** SAP クライアント番号。デフォルト : 001
  - **const\_SAPConnection:** SAP ログイン接続名
  - **const\_SAPLanguage:** SAP 言語。デフォルト: EN
  - **const\_SapLogonPath:** SAP の実行可能なパス。デフォルトでは (x86)\SAP\FrontEnd\SapGui\saplogon.exe
  - **const\_SAPPassword:** SAP ログインパスワード
  - **const\_SAPUser:** SAP ログインユーザー名



SAP Logon 760

Variable Logon Workspace View

Connections Filter Items

Workspaces	Name	System ...
Local	SAP-SSPP	

**const\_SAPConnection**

New password More

Client  **const\_SAPClientNumber**

User  **const\_SAPUser**

Password  **const\_SAPPassword**

Logon Language  **const\_SAPLanguage**

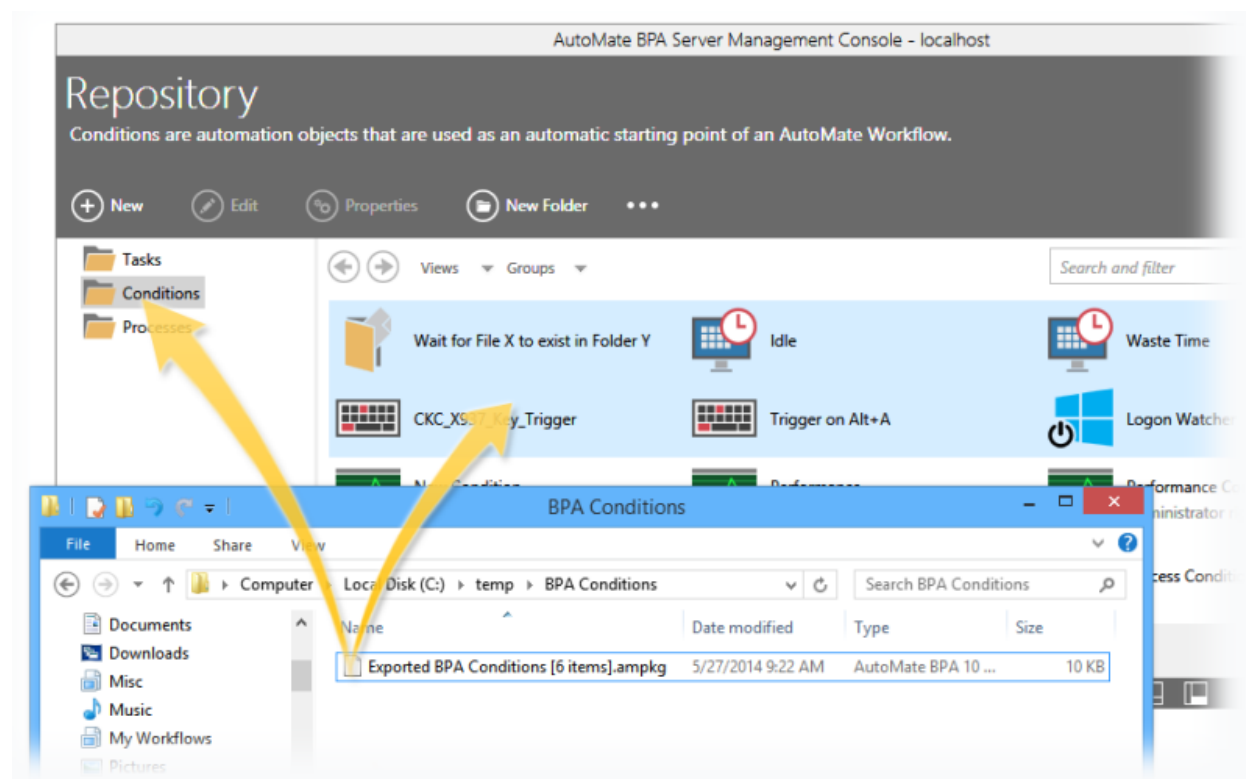


## AUTOMATE タスクのインポート方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでレポジトリに取り込むことができます

サーバー管理コンソールから[レポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。



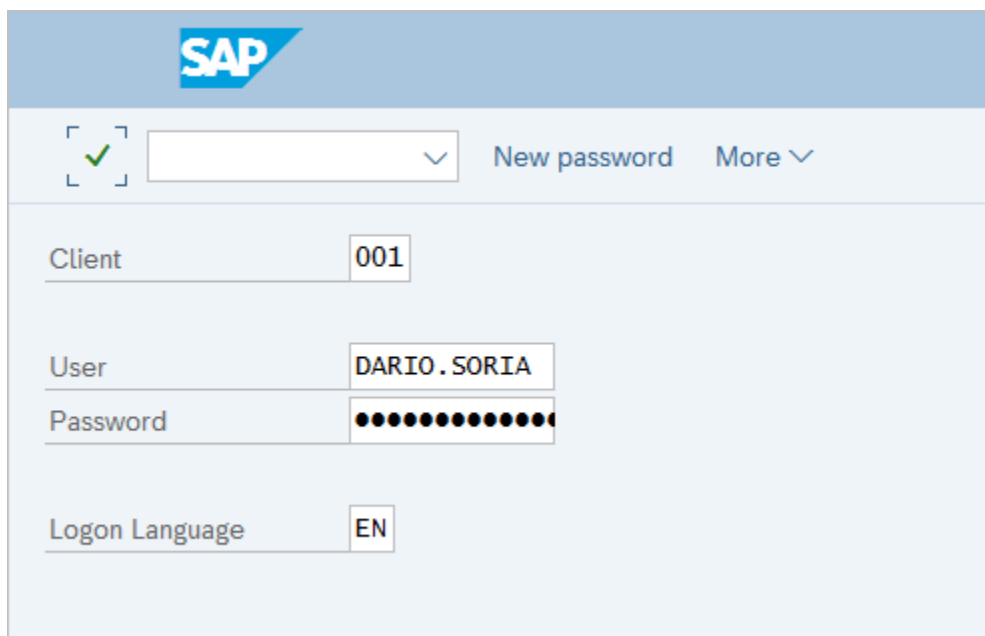


## 「SAP BOT - ジェネリック トランザクション」の実行方法

このドキュメントによって、あなた自身のスクリプトを作ることができます。プログラミングの知識は必要ありません。

以下のスクリーンショットは、数分あるいは数秒でメインスクリプトファイルを作成する方法です。

現在の認証情報を使用して SAP に[ログイン](#)します。



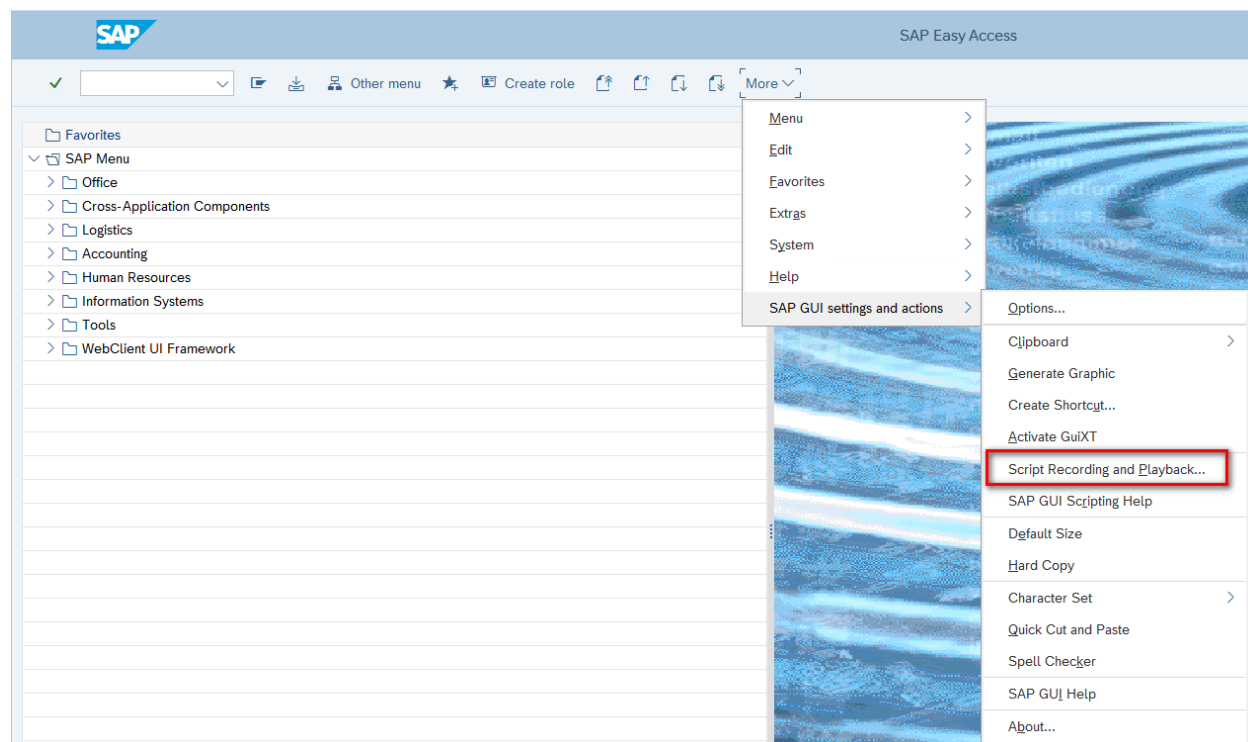
The screenshot shows the SAP login interface. At the top is the SAP logo. Below it is a navigation bar with a green checkmark icon, a dropdown menu, and links for 'New password' and 'More'. The main login area contains four input fields: 'Client' with the value '001', 'User' with the value 'DARIO.SORIA', 'Password' which is masked with black dots, and 'Logon Language' with the value 'EN'.

Field	Value
Client	001
User	DARIO.SORIA
Password	●●●●●●●●●●●●●●●●
Logon Language	EN

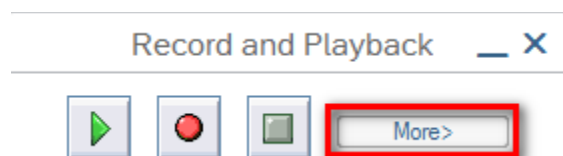




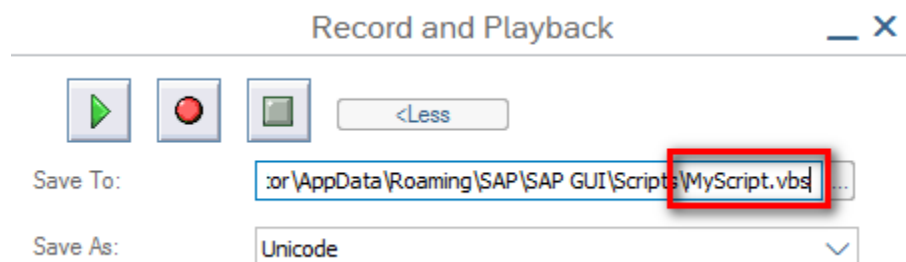
スクリプトの記録と再生に移動します。



More ボタンを展開します。

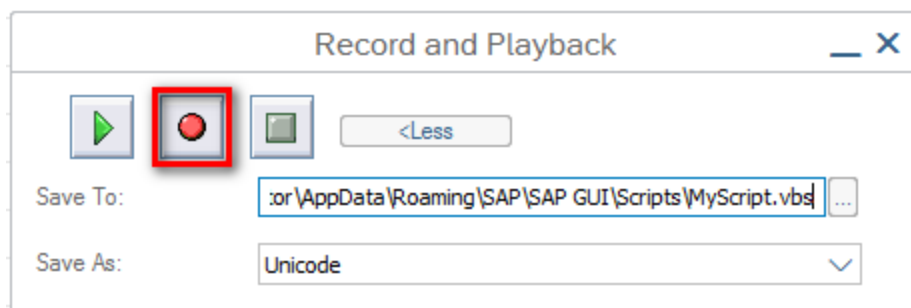


スクリプト名を完成させます（注：拡張子 vbs にすることに注意してください）



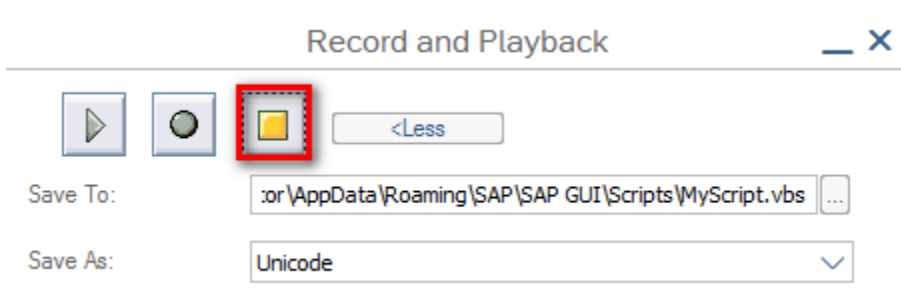


スクリプトの「録音」ボタンを押し、録音を開始します。



スクリプトに保存したいトランザクションを実行します。

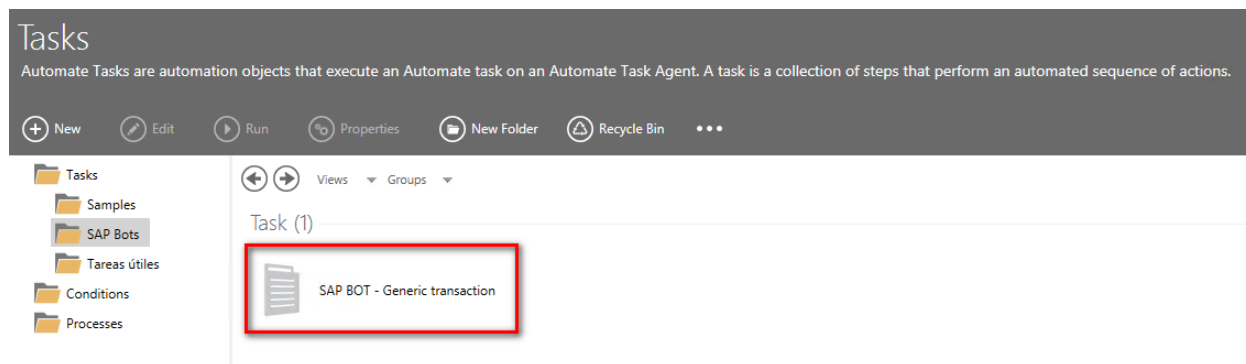
録画が完了したら、「録画停止」ボタンで録画を停止します。これでスクリプトの生成は完了し、ファイルは選択したパスに保存されます。



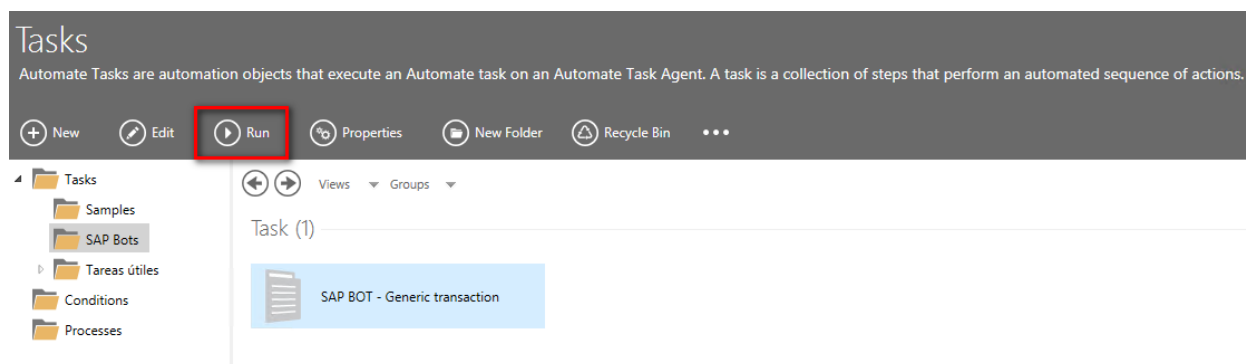


## 「SAP BOT-ジェネリック トランザクション」の実行方法

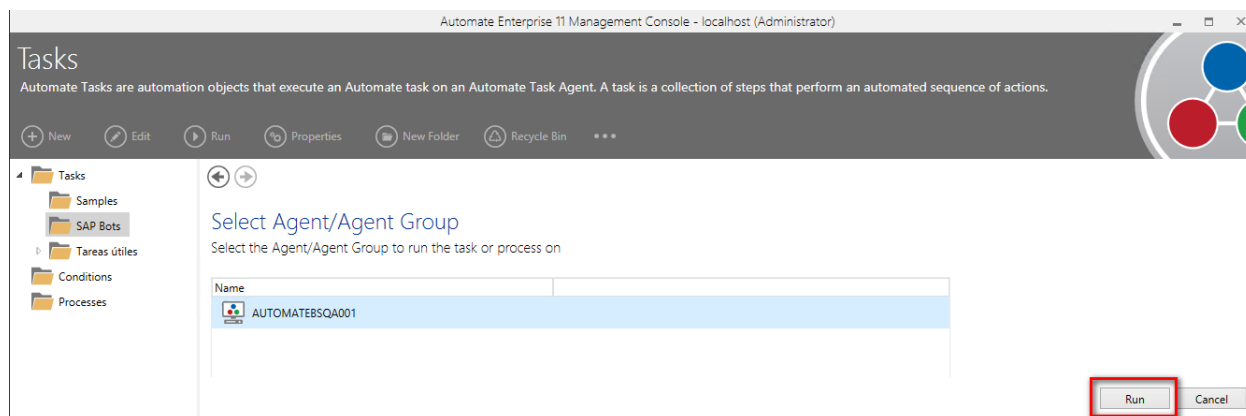
サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを見つけます。



タスクを選択し、「実行」をクリック



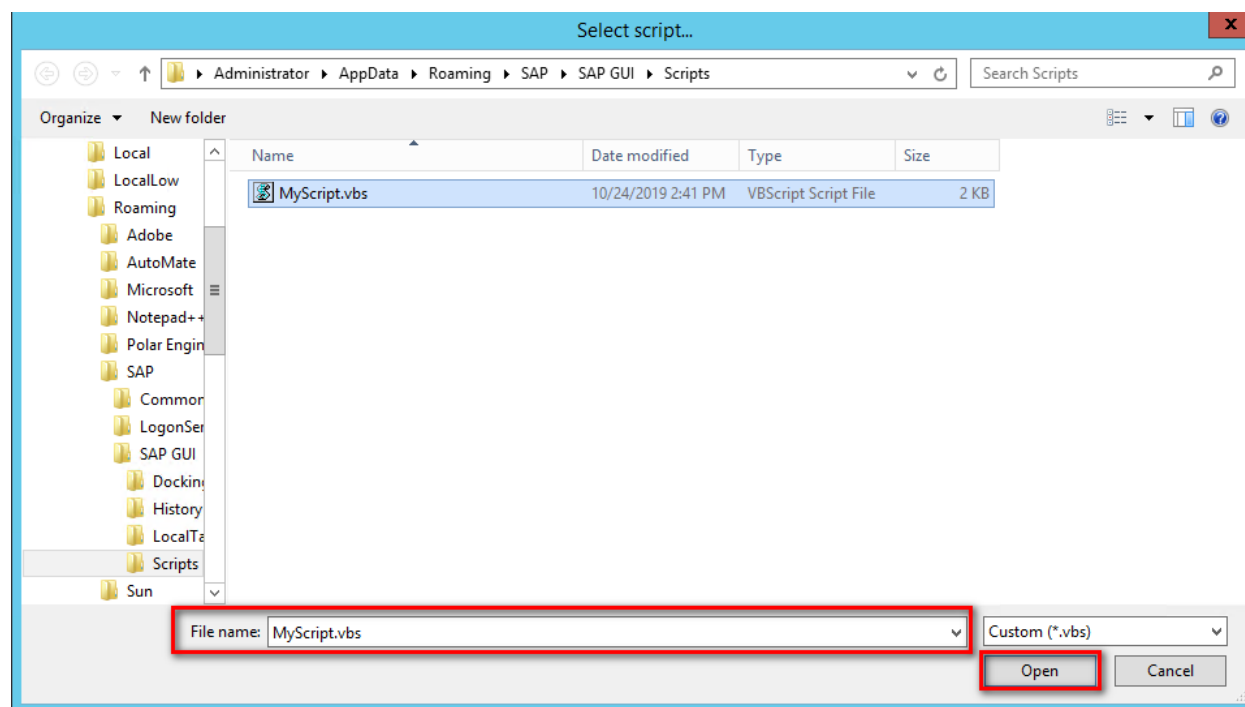
エージェントを選択し、再度「実行」をクリックします。



初めてスクリプトを実行する場合、Windows のダイアログが表示され、記録されたスクリプトの場所を尋ねられます。



ファイルを選択し、「開く」をクリックします。



それ以降の実行では、ファイル名を再度要求されません。



## 付録 A-トラブルシューティング

このディレクトリの下には、便利なフォルダが2つあります。

- **Scripts** : 実行されるスクリプトが含まれています。タスクを初めて実行したとき、このディレクトリにスクリプトのコピーが作成されます。それ以降の実行では、元のスクリプトの代わりにこのスクリプトが使用されます。スクリプトを変更して **AutoMate** に新しいスクリプトを使用させたい場合は、この場所の **Script.vbs** ファイルを削除するだけです **C:\AutoMate\Tasks** 。当然、実行するスクリプトファイルを選択するプロンプトが再度表示されます。
- **ログ**: 実行毎に、トラブルシューティングのためボットはログファイルを作成します。 ログファイルは **C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>** に保存されます。デフォルトでは、タスク名は **SAP BOT - Generic transaction**.



[www.helpsystems.com](http://www.helpsystems.com)

### About HelpSystems

Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and automate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people